

国語 第6学年 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第6学年に載っている物語と資料。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（9月～10月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（C(1)エ・(1)ク）を扱う物語の単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、「五月」と「十二月」を同じ観点で比べた結果を挙げて、二つの場面が対になっていることを説明できる。そのうえで、色や光の言葉、比喩や反復がどんな感じを生んでいるかを自分の言葉で言い、資料から分かる賢治の生き方や考え方や結び付けて、作者がこの作品に込めた思いについての自分の考えを文章にまとめ、友達の考えと比べて広げる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)イ	イ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りが無いよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)キ	キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き（(1)ク）、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)エ・オ）。文章を読んでまとめた意見や感想を共有して自分の考えを広げ、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	①進んで、二つの場面を比べて物語全体を想像したり表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって、作品について考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書出版の年間指導計画例（令和6年度版）は、この単元に読むこと8時間を配当している（9月～10月）。次ごとの内訳（1・5・2）はこちらの案。学校の年間指導計画が違う時はそれに合わせる。国語の標準授業時数は第6学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、不思議に思ったこと・心に残ったことを初めの感想に書く。 ○初めの感想を出し合い、単元の問い「作者は、二つの場面を並べたこの作品にどんな思いを込めたのか」と学習の進め方を決める。	態①（初めの感想・観察）
第2次	2	○「五月」を読み、谷川の底の様子と、かのにの兄弟の様子を想像する。 ○色や光を表す言葉、比喩や反復に線を引き、表現カードに書く。	知①（表現カード）
	3	○「十二月」を読み、同じように谷川の底とかのにの兄弟の様子を想像し、表現カードに書き足す。	
	4	○二つの場面を、同じ観点（時・光・色・上から来た物・かのにの兄弟の様子・お父さんの言葉）で比べる表にまとめる。	知①（比べる表）
	5 （本時）	○比べる表を基に、二つの場面の違いと表現の効果を考え、題名が「やまなし」である理由について自分の考えをもつ。	思①（ノート）
	6	○資料「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方を捉え、作品の中で結び付けられる所に印を付ける。	

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	7	○単元の問いへの自分の考えを、「考え→比べる表から挙げた根拠→資料との結び付け」の順で文章にまとめる。	思②（文章） 態①（文章の見直し）
	8	○グループで文章を読み合い、自分の考えと同じ所・違う所に付箋を貼り、考えが広がったことを書く。 ○学習を振り返る。宮沢賢治のほかの作品を紹介し、並行読書続ける。	思③（付箋・振り返り） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：「五月」と「十二月」を比べた表を基に、二つの場面の違いと表現の効果を考え、題名が「やまなし」である理由について自分の考えをもつことができる。（C(1)エ）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 前時の比べる表を見て、時・光・上から来た物の違いを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「かにの兄弟が主に出てくる話なのに、題名が「やまなし」なのはなぜでしょう」 【めあて】二つの場面を比べて、題名が「やまなし」である理由を考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・五月は昼で、十二月は夜。 ・五月はかわせみが来て、十二月はやまなしが来た。 ・やまなしは十二月にしか出てこない。	・比べる表を黒板に貼り、「上から来た物」の行を色チョークで囲んでおく。 ・題名についての予想は、この時点では短く聞くだけにする。
展開 （ 分）	3 「上から来た物」を比べる。 ○「かわせみが来た時と、やまなしが来た時で、かにの親子の様子はどう違いますか」 4 一人で考え、ノートに書く。 ○「色や光を表す言葉は、二つの場面でどう違いますか。その違いから、どんな感じを受けますか」 5 グループで考えを伝え合う。表のどの行を根拠にしたかを必ず言う。 6 全体で、題名の理由についての考えを出し合い、根拠の行ごとに分けて板書する。 〈予想される児童の反応〉 ・かわせみの時は、兄弟はこわがって、お父さんも心配している。 ・やまなしの時は、親子でついていって、いいにおいだと喜んでいる。 ・五月は日の光で明るい、こわいことが起きる。 ・十二月は月の光で、静かで落ち着いている。 ・比喩が多くて、谷川の底の景色が目浮かぶ。 ・やまなしは、かにの親子に恵みを与える物だから題名にした。 ・こわい五月と、穏やかな十二月を比べると、やまなしの方が作者の言いたいことに近い。 ・どちらも上から来るのに、命を取る物と、命を養う物で違う。	・気持ちや印象を言う前に、必ず表の叙述を確かめる順にする。 ・比喩に気付いた子には、比喩を使わない言い方と比べて、受ける感じの違いを言わせる。 ・作者が作った言葉が何を指すかの言い合いになったら、「その言葉からどんな感じを受けるか」に戻す。 ・読むのが苦手な子には、二つの場面の「上から来た物」の部分だけの拡大本文（ルビ付き）を渡す。 ・早く終わった子には、二つの場面で兄弟の会話がどう変わったかを考えさせる。 ・叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 題名が「やまなし」である理由を、自分の言葉でノートに書く。 （型）「題名が「やまなし」なのは、…だからだと考える。それは、五月の…と十二月の…を比べると…から分かる」 8 振り返りを書く。	・考えは一つに決めず、根拠の行を挙げていれば認める。 ・振り返りは「比べて気付いたこと」と「友達の考えを聞いて付け加えたいこと」の二つで書かせる。 ・次時は資料を読み、賢治の生き方や考え方と作品を結び付けることを伝える。 ◎思① 二つの場面を比べて物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（ノート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に比べる表（上の段に「五月」、下の段に「十二月」。列は右から時・光・色・上から来た物・かにの兄弟の様子・お父さんの言葉）。「上から来た物」の列（かわせみ・やまなし）を色チョークで囲み、その横に、かにの親子の様子の違いを子どもの言葉で書く。中ほどから左に、子どもの考え（題名の理由）を、根拠にした列ごとに分けて並べ、表の列と線で結ぶ。左端にまとめの文の型と、振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、作者が作った言葉や意味の決まらない言葉で止まり、それが何かを当てる話し合いに時間を使う。手当ては、何を指すかは作品の中に書かれていないことを全体で確かめ、「その言葉からどんな感じを受けるか」と聞き返すこと（(1)ク）。二つ目、二つの場面を「こわい」「楽しい」という印象だけで比べ、根拠の叙述を挙げられない。手当ては、比べる表の観点を先に決め、観点ごとに叙述を書き写してから印象を言わせる順にすること（C(1)イ）。三つ目、比喩に気付いても「～のようだ」と言い換えるだけで、効果まで考えられない。手当ては、比喩を使わない言い方に直した文と並べ、受ける感じの違いを比べさせること（C(1)エの「表現の効果」）。四つ目、資料の内容をそのまま作品の答えにしてしまう。手当ては、作品の中の根拠を先に書き、資料は「結び付けられる所」として後から足す形のワークシートにすること（C(1)オ）。五つ目、幻灯などの昔の言葉や、やまなし・かわせみなどの実物を知らず、場面の様子が思い浮かばない。手当ては、辞書で意味を確かめ、写真や図で実物を見せること（第3の2(1)イ）。

プリントの案

表現カード（単元を通して使う）

一枚に、見付けた言葉（先生が教科書から書き入れるか、子どもが書き写す）、どちらの場面か、種類（色・光・比喩・反復・作者が作った言葉）の印、その言葉から受ける感じ、の四つの欄。(1)クに合わせた。

二つの場面を比べる表

縦に「五月」「十二月」「比べて気付いたこと」の3段、横に時・光・色・上から来た物・かにの兄弟の様子・お父さんの言葉の6列。各欄は上に叙述（書き写す）、下に受ける感じ。C(1)エを表の形にしたもの。

本時のワークシート（題名の理由）

上に「上から来た物」を比べる枠（かわせみの時・やまなしの時のかのにの親子の様子）、中ほどに色や光の言葉の違いと受ける感じの枠、下に「題名が「やまなし」なのは、…だからだと考える。それは、五月の…と十二月の…を比べると…から分かる」の型。本文は印刷しない。

作品と資料を結び付けるシート

右に「資料に書かれている賢治の生き方や考え方」、左に「作品の中で結び付けられる所（場面と叙述）」、下に「結び付けて考えたこと」。作品の根拠を先に書く欄の順にしてある。C(1)オに合わせた。

単元の問いの作文用紙と振り返りカード

作文用紙は「自分の考え」「比べる表から挙げた根拠」「資料との結び付け」の三つの枠。振り返りカードは「比べて気付いたこと」「友達の考えを聞いて広がったこと」の二つの枠。C(1)オ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価基準の文末と3観点の形、「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準の作り方（粘り強さ・自らの学習の調整）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第6学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 6年（Excel）。単元名「作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう」・読むこと8時間・9月～10月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

